

2019年度 学校経営計画及び学校評価

1 教育目標

<p>[教育目標]「一人ひとりの未来へと繋がる夢を実現する」</p> <p>[育てたい人物像]・知育・徳育・体育の調和のとれた人格を有し、国際社会に貢献し、活躍できる生徒</p> <p>・多様な個性を尊重し、相手の立場に立って行動できる、意志が強く、くじけない生徒</p> <p>・自らの能力を最大限に伸ばし、進路実現にたゆまず努力する生徒 ・主体的に課題を発見し、周囲と協働し解決することのできる生徒</p> <p>・自治と責任を重んじ、謙虚と礼儀を尊ぶ生徒</p>
--

2 中期的目標

<p>1. 進路指導体制の強化：「進路満足度 100%」を目途とした大学合格実績に直結する進路指導の展開</p> <p>2. カリキュラム・マネジメント：コース・コンセプト達成に向けた実証データに基づく体系的組織運営による授業改善と教員の資質向上</p> <p>3. 新学習指導要領に対応する教育実践：グローバル教育・探究教育・理数教育の実践と AI を活用した個別最適学習の定着</p> <p>・グローバル教育：4技能5領域を重視した英語コミュニケーション力と多文化理解力の育成</p> <p>・探究教育：主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）に向けた教科横断型授業実践 ・理数教育：STEM 教育と各種コンテスト等への参加</p> <p>4. 入試広報戦略の強化：エンrollment・マネジメントへの基盤づくりと校塾連携</p>

3 学校教育の自己診断と学校関係者評価委員会の意見

学校教育自己診断の結果と分析	学校関係者評価委員会からの意見
<p>① 学校評価について</p> <p>中高・保護者・教職員共に肯定的意見が大半を占めているが、生徒・保護者に共通する「要改善」(注)は「悩みや困ったことを先生に相談」「施設・設備」である。「学園理念・校訓を意識」「災害時避難方法」「学校生活などの諸規定」「部活動や生徒活動」も特記事項。「悩み...」は教員研修、「施設...」は「夢・未来プロジェクト」にて対応。「学園理念...」「災害時...」は運営委員会、「学校生活の諸規定...」「部活動...」は新設2年目の生徒会を中心に取り組む。</p> <p>② 授業評価について</p> <p>中高共には肯定的意見が大半を占め、「要改善」はない。「要精査」は中2の国際、中3の社会と保健、高2の英語表現Ⅱ、生物、探究。新学習指導要領と大学入学共通テストを意識したカリキュラム・マネジメントに基づく教育実践を試みる。</p> <p>(注)2018年度より「学校評価」「授業評価」を年2回実施。対象は、生徒、保護者、教職員(学校評価のみ)。設問に対して「(やや)あてはまる」と答えた割合を「達成率」とし、達成率90%以上を「高評価」、60～69%を「要精査」、60%未満を「要改善」としている。</p>	<p>■ 委員会の実施日</p> <p>・学校関係者評価委員会：2020年3月23日(6名) → 保護者会役員、校長、事務長、教頭等</p> <p>・第三者評価委員会：2020年3月25日(8名)</p> <p>■ 自己評価の結果に対する評価(要約)</p> <p>・“チームはつとん”による「進路満足度」を高める組織的な進路指導体制は生徒個々の進路実現に寄与しており、保護者として信頼が置ける。</p> <p>・「超進学校化プロジェクト」「はつとんゼミ」、AI教材等により学校全体に個別最適学習(アダプティブ・ラーニング)の定着が見られる。</p> <p>・生徒会の発足、文化祭のリニューアル、同好会(ダンス・茶道)の新設等は“明るく楽しい進学校”づくりに寄与し、期待値も高い。</p> <p>・全校朝読、全校ビブリオバトル(全国大会優秀賞1名[高1]、西日本大会準優勝1名[高2])、蔵書の充実と電子図書館化は背景知識の強化に有益。</p> <p>・校舎の老朽化が不安材料である。</p>

4 本年度の取り組みと達成状況

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価	次年度に向けての改善策
1 進路指導体制の強化	「進路満足度 100%」を目途とした大学合格実績に直結する進路指導の展開	<p>① 学校改革初年度である2018年以降、「進路満足度 100%」を掲げ、Will-Frontier コース(WF)は中堅～難関までの国公立大学、未来創造コース(未来)は中堅国公立大学及び有名私大をターゲットとした。また、AO・推薦等も積極的に活用することとした。</p> <p>② 考査分析会・模試分析会の実施</p> <p>・考査分析/模試分析シートの活用</p> <p>・センター試験の分析：傾向と対策</p> <p>・「大学入学共通テスト」対策</p> <p>③ 研修 [OJT と Off-JT] の推進</p> <p>・学識経験者等、外部講師による研修</p> <p>・予備校等主催のセミナー参加</p> <p>④ 校内予備校(オプション)の設置</p> <p>開講科目は5教科(集中講座含む)</p> <p>⑤ 小テストの5教科化</p> <p>⑥ 「出願検討会」の実施</p> <p>⑦ 「入学前先取り講座」の実施</p>	<p>① WFは国公立の大府大・市大・教育大レベル(上位層は難関国立・医学部医学科)、「未来」は和歌山大・有名私大レベルを到達目標とした。</p> <p>② ③ 研究開発部が中心となり、年数回実施、平常授業にフィードバック、授業力向上に活かし、授業評価と模試結果等でPDCAを講じる。</p> <p>④ 対象を中3～高3とした大学受験対策講座</p> <p>⑤ 個別指導の徹底</p> <p>⑥ センター試験の自己採点后、進路指導部+高3全体で実施、合格率向上をめざす。</p> <p>⑦ 指定校内定者に対する入学前指導の実施</p>	<p>①卒業生数327名、大学・短大に約9割が進学。進路満足度97%。(担任報告、前年88%)合格者総数は国公立86名、私立953名と大幅増加。現役合格者数も共に2年連続増加。難関の医学部医学科を含む医歯薬系はじめ、大阪府大+市大+教育大、有名私大(関関同立+産近甲龍)、国公立AO・推薦、並びに指定校推薦(84名)も増加した。</p> <p>②③各教科の年間の考査平均はほぼすべて目標得点率を維持できた。大阪市教育委員会・関西大学から講師を招いた研修会を実施した。</p> <p>④ 通年実施。1,000名以上が受講し、大学合格者増に寄与した。</p> <p>⑤ 新テスト対策として有効</p> <p>⑥ 1.23実施。現役合格者増加に直結する適正指導ができた。</p> <p>⑦ 文系・理系別「入学前先取り講座」(2回)とTOEIC対策講座(5回)を実施した。</p>	<p>①②③新学習指導要領と大学入試改革を見据えた進路指導体制構築と新テスト研究、5教科「超進学校化プロジェクト」拡充(3参照)</p> <p>④⑤内容を精選して継続実施、ICT(AI)を活用した個別最適学習(アダプティブ・ラーニング)の融合</p> <p>⑥⑦内容を精選して継続・拡充</p>

2 カリキュラム・マネジメント	(1) コース・コンセプト達成に向けた実証データに基づく体系的組織運営	<p>① 管理職会議・運営委員会の組織的運営：“教職協働”による校務推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常務理事及び校長による運営委員指導・助言（働き方改革の推進） <p>② 委員会の新設 *（ ）は略称</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・マネジメント委員会(CM) ・グローバル教育推進委員会 (G) ・理数教育推進委員会 (S) ・ICT教育推進委員会 (I) ・探究推進委員会 (Q) ・校塾連携推進委員会(P) ・衛生委員会(H) ・生徒会発足準備委員会(SP) 	<p>① 校長のリーダーシップの下、教職員が協働的かつ組織的に取り組める体制に変容させ、学校評価・授業評価に基づくPDCAサイクルを実践。</p> <p>② 分掌・学年・教科との連携を図り、分権型リーダーシップによって全体のブラッシュ・アップを図る。課題解決型のアジャイル (Agile) 開発を行う。</p>	<p>① 学校運営がシステマティックに機能するようになった。また、研究授業や各種調査結果に基づく教職員への指導で“チーム学校”が定着してきた。</p> <p>② CM：集団指導体制による意思決定、G：海外研修プログラム、コース新設、SとI：AIを活用した個別最適学習、Q：探究教育の評価基準策定、P：校内予備校の運営、H：産業医との連携。SP：生徒会役員選挙、挨拶運動、富田林寺内町でのボランティア活動</p>	<p>①カリキュラム・マネジメントによる「開かれた学校づくり」と「明るく楽しい進学校」の創造。</p> <p>②EdTech、広報、医進、図書館教育等にスクラップ&ビルド/新設「グローバル特進探究コース」の内規化。</p>
	(2) 授業改善と教員の資質向上	<p>研究開発部による企画・実践</p> <p>① 研究授業、公開授業の実施</p> <p>② 機関紙の発行</p> <p>③ 授業評価、学校評価の実施</p> <p>④ 委託研究、資格取得の奨励</p>	<p>① 研究授業と教科研究会、第2回教育シンポジウムの開催、② 定期的発行、③ 2回実施とフィードバック、④ 積極活用</p>	<p>① 年2回実施、シンポジウム(11/9、日本私学教育研究所・富田林市後援)、② 年3回(各学期)発行。③ 3/23、3/25 実施。④ 委託研究1件 [英語科] (日本私学教育研究所・個人研究)</p>	<p>第3回教育シンポジウムの開催/産学協同の推進/競争的資金等の活用。</p>
3 新学習指導要領に対応する教育実践	グローバル教育・探究教育・理数教育の実践とAIを活用した個別最適学習の定着	<p>① グローバル教育 *（ ）は略称</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4技能5領域重視の英語教育実践 ・ロサンゼルス研修 (Los：中3) ・オックスフォード研修 (Ox：高1) ・立命館アジア太平洋大学国内留学 (APU) ・ディベート講座 (D：無学年) ・オンライン英会話授業 (0：中2～3) ・English Roomの新設 (E：無学年) <p>② 探究教育：教科横断的アプローチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中2～高2：総合学習にて実施 ・新学習指導要領に対応する高2探究評価方法の検討 ・「社会の探究教室」開室 ・「高3対象センター試験対策」 <p>③ 理数教育：理数探究的アプローチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「実験教室」と科学ニュース配信 ・「数学クラブ」の開講 ・各種コンテストへの積極的参加 <p>・AIを活用した数学指導の研究と実践</p>	<p>① 英検、GTEC等で測定、各種イベント等</p> <p>Los：10.23～11.2 (86名)</p> <p>Ox：中止（事前研修は済）</p> <p>APU：7.17～19 (54名)</p> <p>D：11.16(19名) 11.30(13名)</p> <p>O：「国際理解」にて実施</p> <p>E：英作文対策、映画上映会</p> <p>② 中2：事前学習、中3：「クエストカップ」、高1：成果発表、高2：評価方法の作成</p> <p>歴史・地理検定、「観光甲子園」「地理オリンピック」参加</p> <p>③ サイエンス・ルームの整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理科部と連携した取り組み ・「数楽研究会」「Math Friends*」 ・「数学オリンピック」「科学の甲子園」 <p>・AI教材「Qubena」導入</p>	<p>① CEFR・B1レベル190名(英検2～準1級)、「トビタテ留学Japan」2名[高2]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリフォルニア工科大等でキャリア教育 ・新型コロナウイルス感染症拡大のため ・多文化理解に努めた。 ・ディベートの基礎を学習した。 ・隔週実施によるICT英語教育 ・ネイティブ個別指導、映画視聴 <p>② 中2：通年指導、中3：全国大会出場（「新型コロナ」のためオンラインにて発表のみ）、高1：1/24、高2：観点別評価法を策定</p> <p>歴史能力検定日本史1級[高2]合格者等を輩出。</p> <p>④ 必要備品等の購入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験(5回)、配信(22回) ・個別最適学習習慣がついた。 ・中学生35名が予選参加 ・中学6名、高校6名が予選参加 ・中1～2：個別最適学習が進化 	<p>① 海外研修プログラム拡大(ケンブリッジ)/ICT英語個別最適学習の全学年導入/多読指導導入/英語で英語の授業</p> <p>② 中1より探究学習開始/高1探究学習をリニューアル。</p> <p>③ AI個別最適学習(数学)を全学年導入/プログラミング学習(中1、高1)/データサイエンス部新設</p>
	エンrollment・マネジメントへの基盤づくりと校塾連携	<p>① 学習塾訪問、中学校訪問と受験者数増加に結びつく地道な渉外活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マーケット・リサーチに基づく広報活動：入試委員+管理職+運営委員 ・的確な情報収集と分析 ・コース・コンセプトに合う生徒確保 <p>② オープンスクール、入試説明会、プレテスト等のイベント運営</p>	<p>① 訪問回数と案件数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問回数と追跡調査 ・「S特進探究」「G特進探究」「特進探究」のコース ・コンセプトに合ったアピール・ポイントの明確化 <p>② 来場者のデータ管理とステークホルダー分析</p>	<p>① 中学は志願者が大幅増、過去最多の500名を突破し、入学者125名は定員充足。高校は入学者が増加し275名、1クラス増の8クラス編成。中高共に、到達度の高いクラスが1クラスずつ増加した。目標塾訪問件数3,000件以上(2019：2,719件、2018：前年647件)</p> <p>② 学校改革への高い期待値が裏付けられた。中学は「S特進探究コース」、高校はⅢ類に人気が集。中学は全日程とも増加、高校は専願者が40名以上増加した。</p>	<p>① 校務分掌の工夫による訪問回数の強化(新規開拓含む)</p> <p>② 効率のよい広報イベント展開とコース別アピール・ポイントの浸透</p>
4 入試広報戦略の強化					